



事業概要

2018年6月22日

ジーエルサイエンス株式会社

1. ジーエルサイエンスとは - ABOUT US -
2. 2018年3月期(第51期)実績
3. 中期経営計画
4. 2019年3月期(第52期)の取組



1. ジーエルサイエンスとは - ABOUT US -

A top-down view of a diverse group of approximately 15 people of various ages and ethnicities holding hands in a circle on a light grey floor. The people are dressed in casual to business-casual attire. The text is centered within the circle.

ジールサイエンスとは
ABOUT US

GL Sciences

海でも、山でも、あなたの街でも。

ジールサイエンスとあなたの暮らしには
ちょっと”ステキな関係”があるのです。

ジーエルサイエンスと
ちょっとステキな関係

ジーエルサイエンスと

“ 水 ”
WATER



ジーエルサイエンスと

“ 食べ物 ”
FOOD



ジーエルサイエンスと

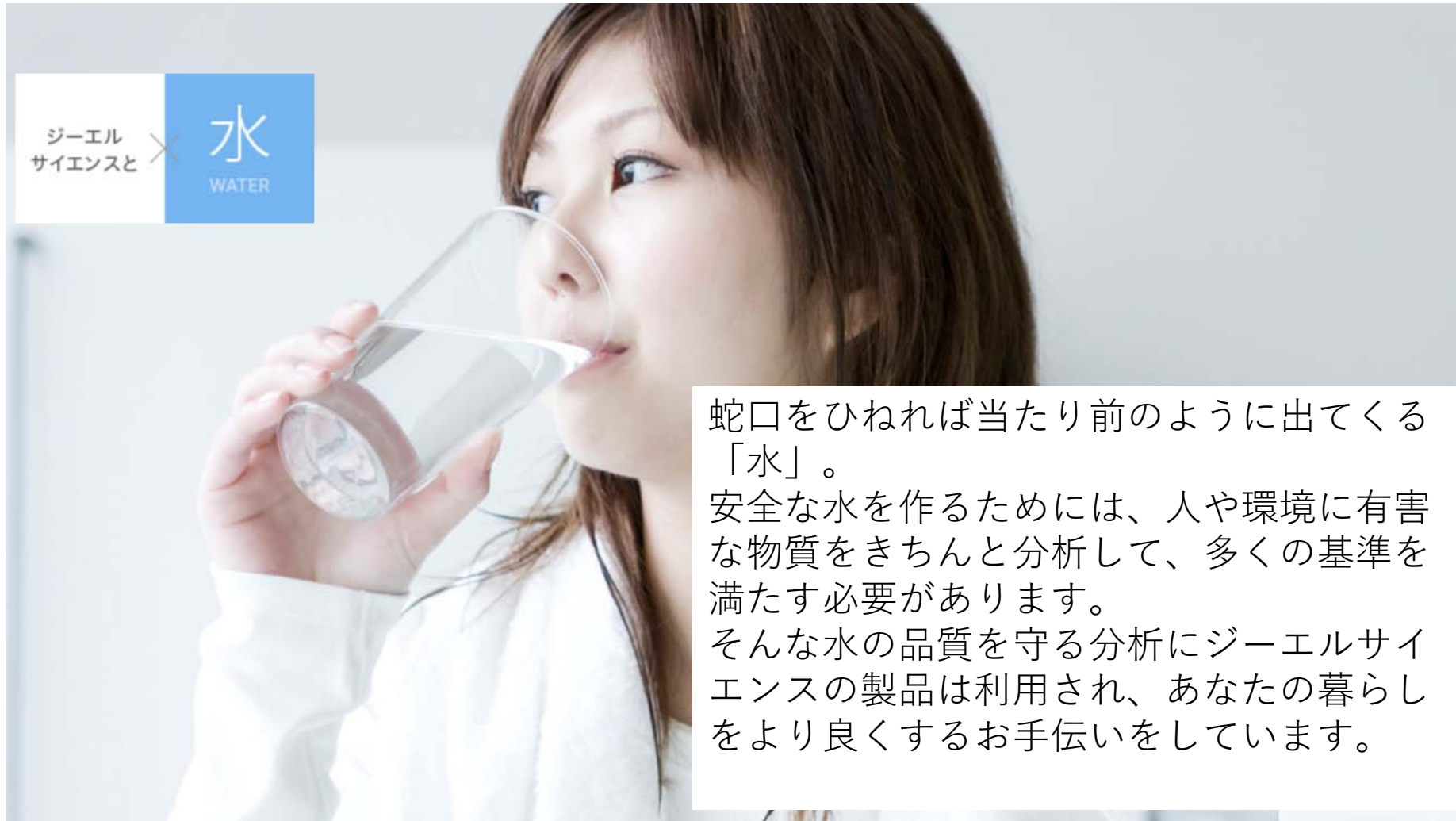
“ 薬 ”
DRUG



ジーエルサイエンスと

“ 空気 ”
AIR





蛇口をひねれば当たり前のように出てくる「水」。
 安全な水を作るためには、人や環境に有害な物質をきちんと分析して、多くの基準を満たす必要があります。
 そんな水の品質を守る分析にジーエルサイエンスの製品は利用され、あなたの暮らしをより良くするお手伝いをしています。

ジーエル
サイエンスと × 食べ物
FOOD



毎日、誰もが口にする「食べ物」。
あなたと家族が安心して美味しく食事をする
ために、食品やその原材料について、栄養成
分、残留農薬、かび、香りなどの分析が行わ
れています。そんな食の安全を守る分析にジ
ーエルサイエンスの技術は利用され、あなた
のあたたかい食卓を支えています。

様々な場面であなたを助けてくれる「薬」。
副作用のリスクを減らし、安心して薬を使うためには、しっかりと成分を分析することが必要不可欠です。そんな人を守るための分析にジーエルサイエンスの製品は利用されています。小さな薬が持っている人を想う気持ち、ジーエルサイエンスも同じ気持ちであなたとつながっています。

ジーエル
サイエンスと

× 空気
AIR

あなたが今吸い込んだ「空気」。
部屋や車内の空気、街の排気ガス、
工場から出る燃焼ガス、光化学ス
モッグ、PM2.5・・・。
様々な場所の空気を整えるために、
多くの規制があり、そのための分析
法があります。
そんなデリケートな空気を守るため
の分析にジーエルサイエンスのノウ
ハウは利用され、あなたの空気をき
れいに保つお手伝いをしています。



「水」、 「食べ物」、 「薬」、 「空気」、

これはほんの一例。

あなたの周りにある、意外と身近な「分析」。

ジーエルサイエンスは、様々なシーンで、あなたとのちょっと“ステキな関係”を築いています。

私たちは、1968年に創業して以来、

「分析」に関わる多くの製品と技術を提供することで、

「分析」に携わる企業や研究機関をサポートしてきました。

そして、

ジーエルサイエンスはこれからも、

「分析」というソリューションを用い、

安心、安全な世の中を実現するために、

皆様と共に考え、皆様と共に歩む企業を目指します。



日本から世界へ。

今日もあなたとジーエルサイエンスの

“ステキな関係”は広がり続けます。



2. 2018年3月期(第51期)実績



連結実績

2018年3月期 連結決算概要



売上高、営業利益ともに過去最高を更新

BS

- 資産は 3,174百万円増加の 29,609百万円
- 負債は 1,061百万円増加の 7,919百万円
- 純資産は 2,113百万円増加の 21,690百万円
- 自己資本比率 63.9%

PL

- 分析事業、半導体事業、自動認識事業の3事業すべて増収増益

CF

- 営業CF 10百万プラスの 1,749百万円
- 投資CF 1,521百万円マイナスの Δ 1,720百万円
- 財務CF 204百万円プラスの Δ 166百万円

2018年3月期 連結業績



(単位:百万円)

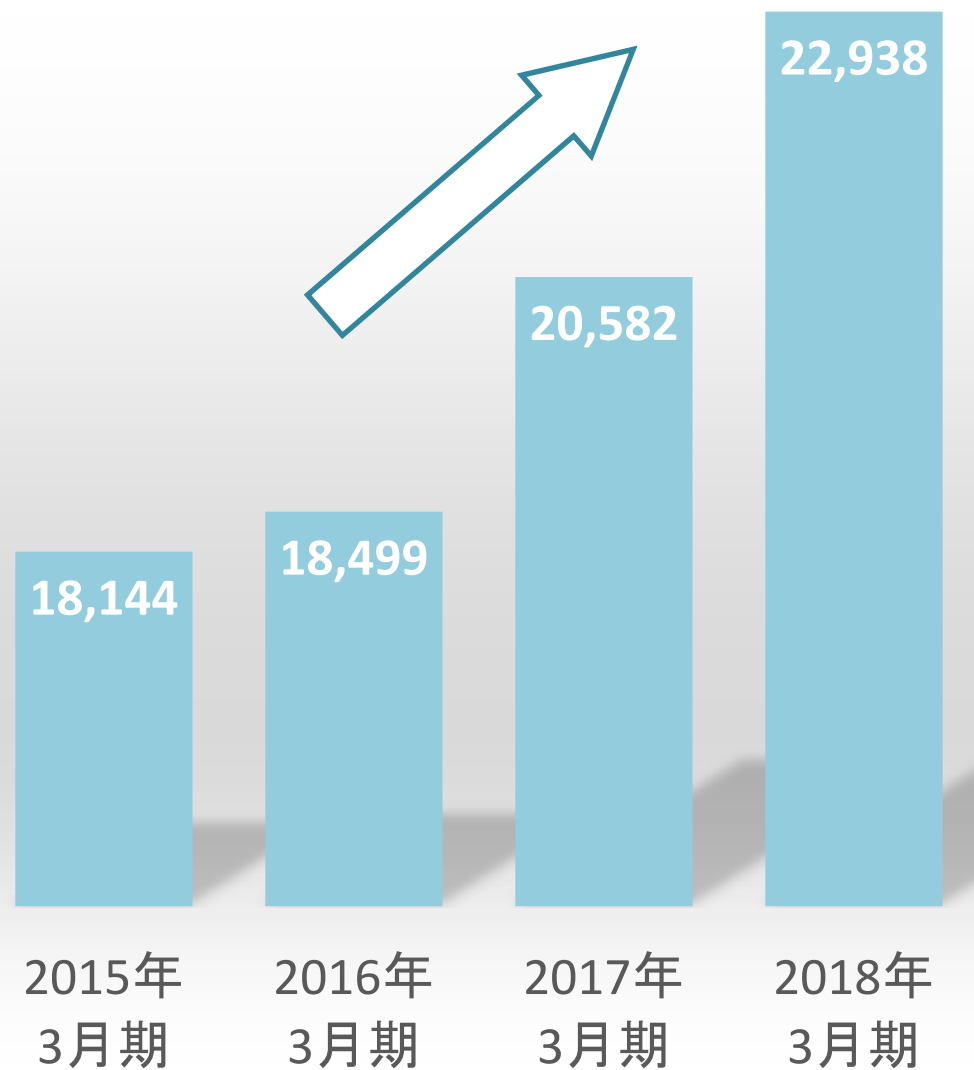
	2017年 3月期	2018年 3月期	前年比	前年差	
売上高	20,582	22,938	+11.4%	+2,356	
営業利益	1,801	2,418	+34.3%	+617	
営業利益率	8.8%	10.5%	-	-	
経常利益	2,063	2,563	+24.2%	+499	
当期純利益	1,511	2,046	+35.4%	+535	
親会社株主に帰属する当期純利益	1,318	1,747	+32.5%	+429	
EPS	128.52	170.28	+35.4%	+47.82	
為替レート	米ドル	108円	111円	-	+3円
	ユーロ	119円	130円	-	+11円

EPS : 1株当たり当期純利益(円)

連結 売上高推移



(単位: 百万円)



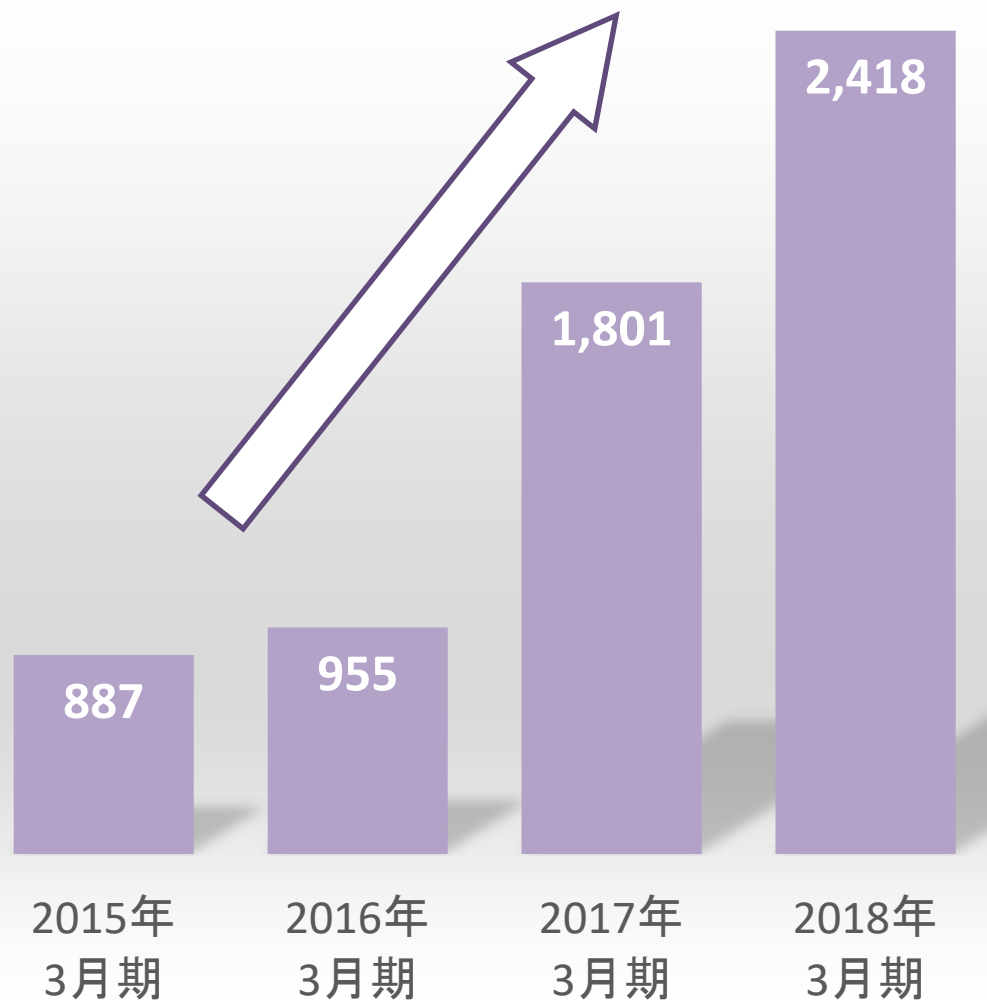
連結売上高

前年同期比 **11.4%**増

連結 営業利益推移



(単位:百万円)



連結営業利益

前年同期比 **34.3%**増

2018年3月期 セグメント別業績

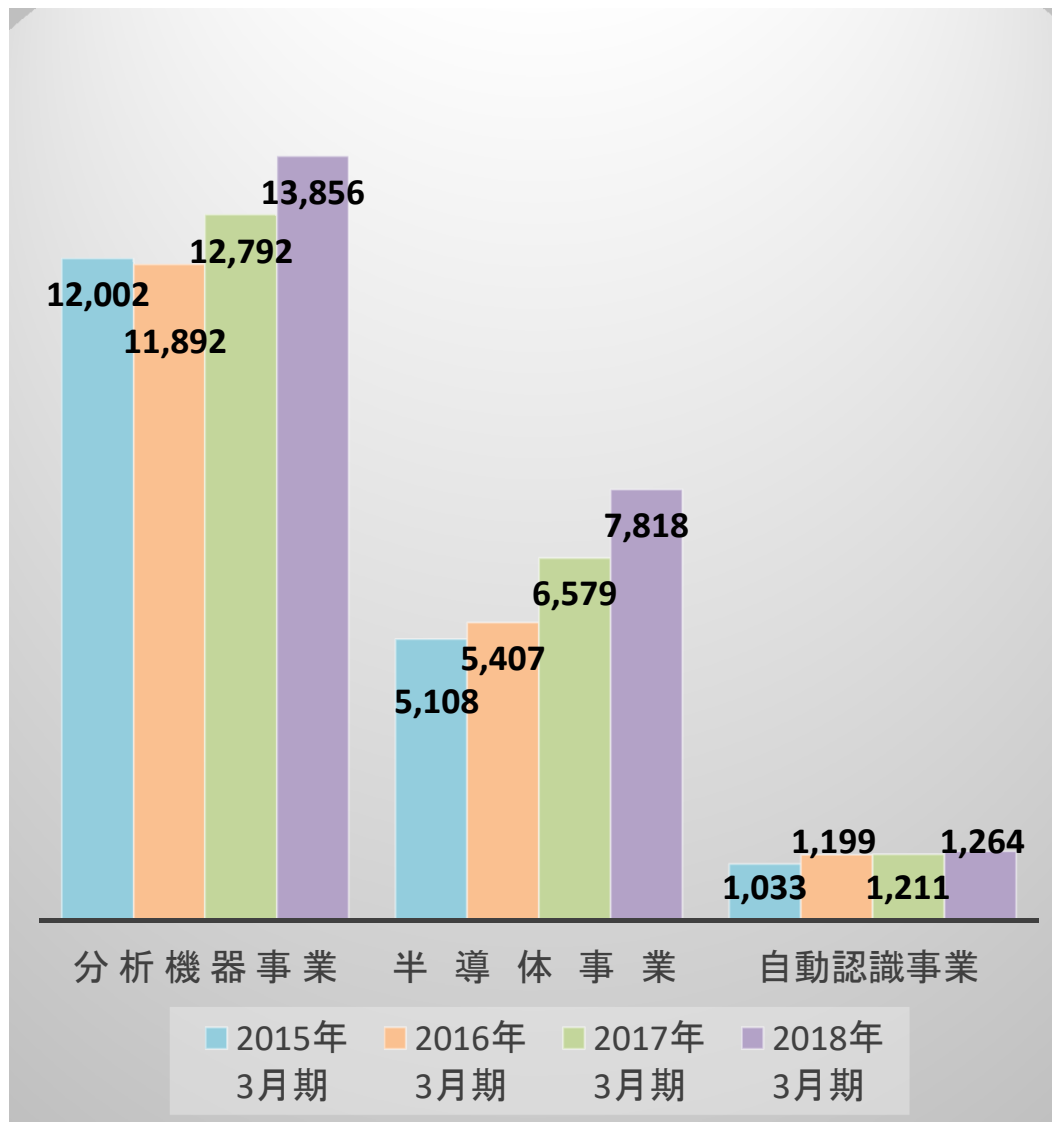
(単位: 百万円)

	2017年 3月期	2018年 3月期	前年比	前年差
分析機器事業				
売上高	12,792	13,856	+8.3%	1,063
営業利益	1,078	1,254	+16.3%	176
半導体事業				
売上高	6,579	7,818	+18.8%	1,239
営業利益	723	1,131	+56.4%	408
自動認識事業				
売上高	1,211	1,264	+4.4%	52
営業利益	2	33	+1,295.6%	31
連結				
売上高	20,582	22,938	+11.4%	2,355
営業利益	1,801	2,418	+34.3%	617

連結 セグメント別売上高



(単位: 百万円)



分析機器事業

前年同期比 **8.3%増**

半導体事業

前年同期比 **18.8%増**

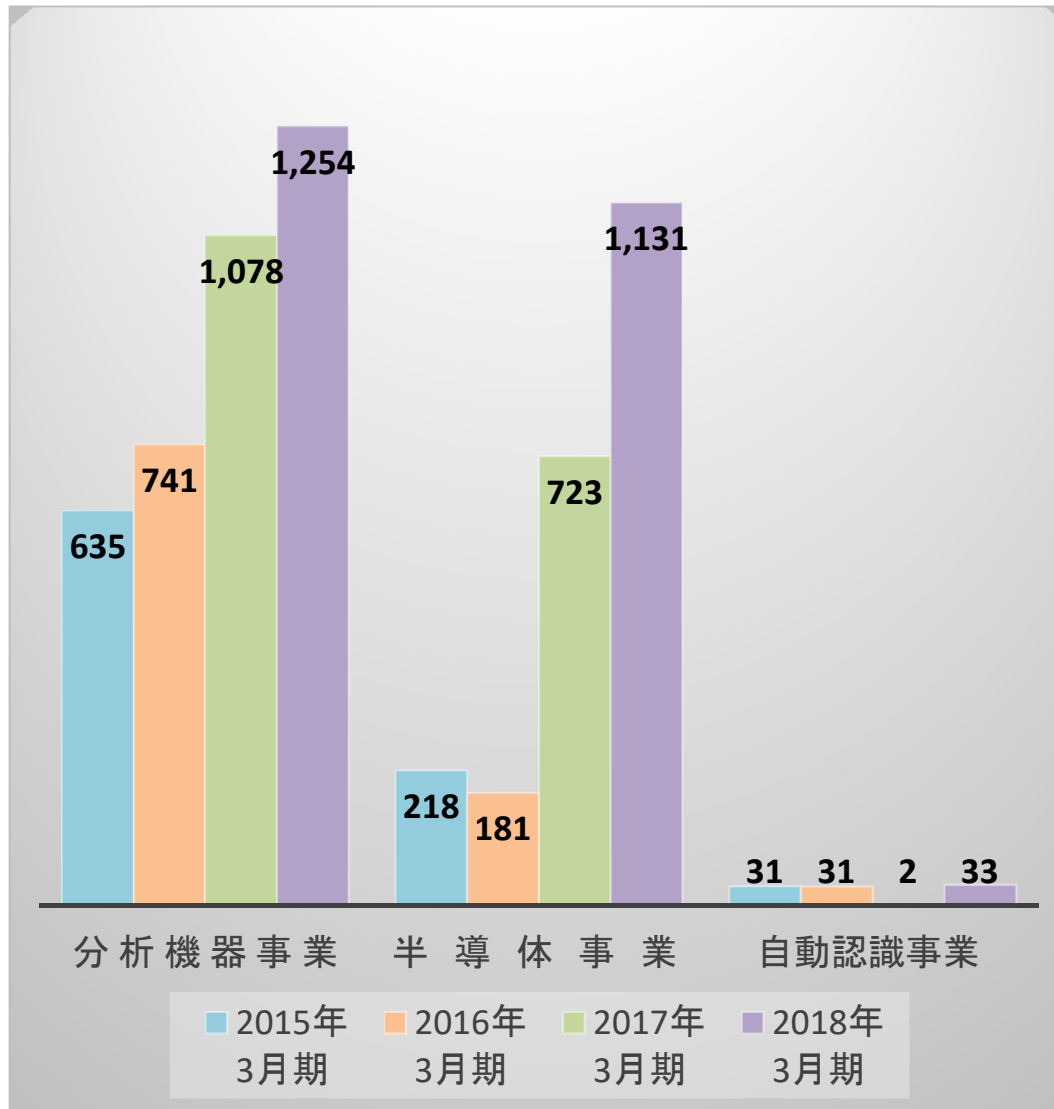
自動認識事業

前年同期比 **4.4%増**

連結 セグメント別営業利益



(単位: 百万円)



分析機器事業

前年同期比 16.3%増

半導体事業

前年同期比 56.4%増

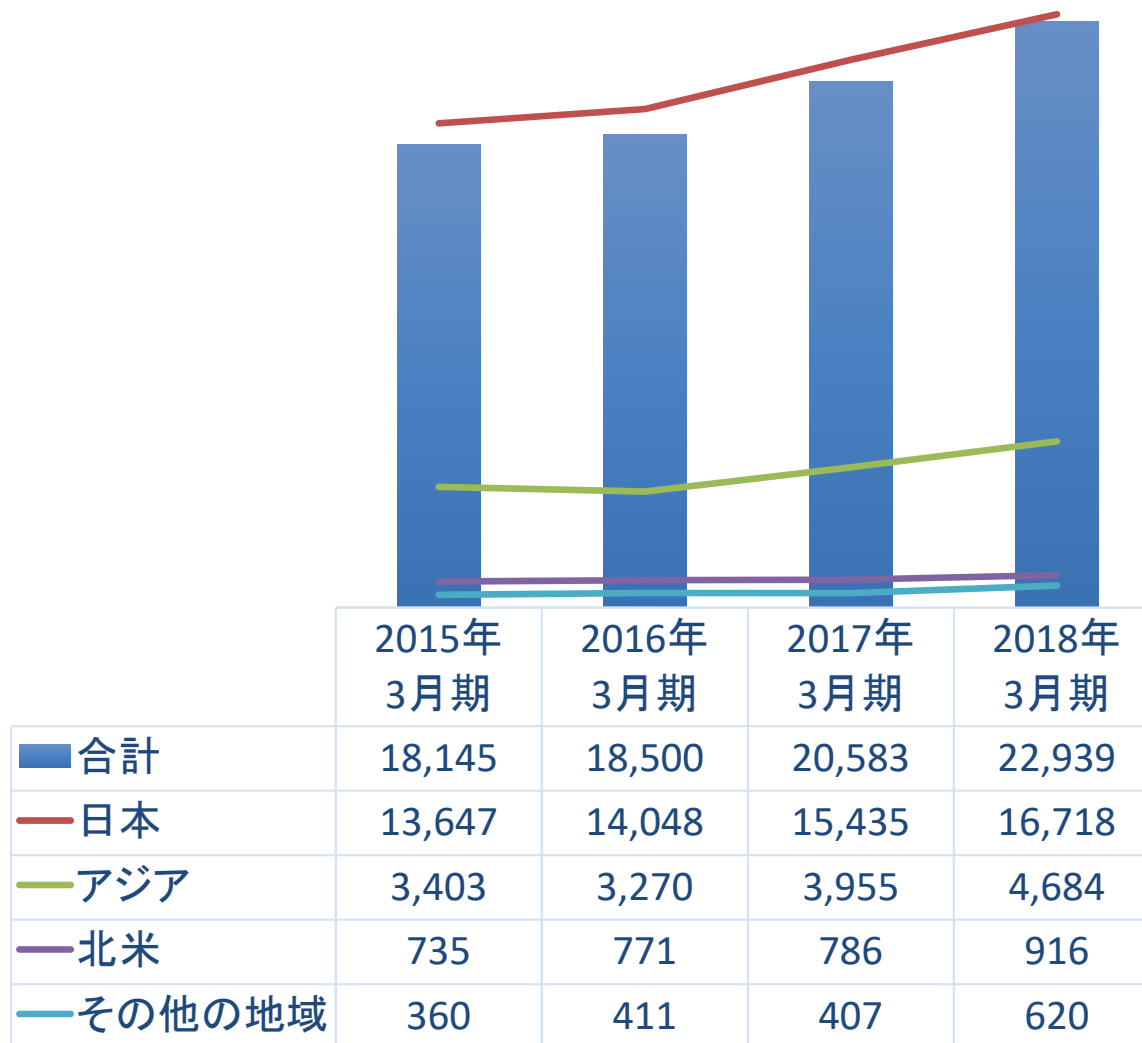
自動認識事業

前年同期比 1,295.6%増

連結 地域別売上高

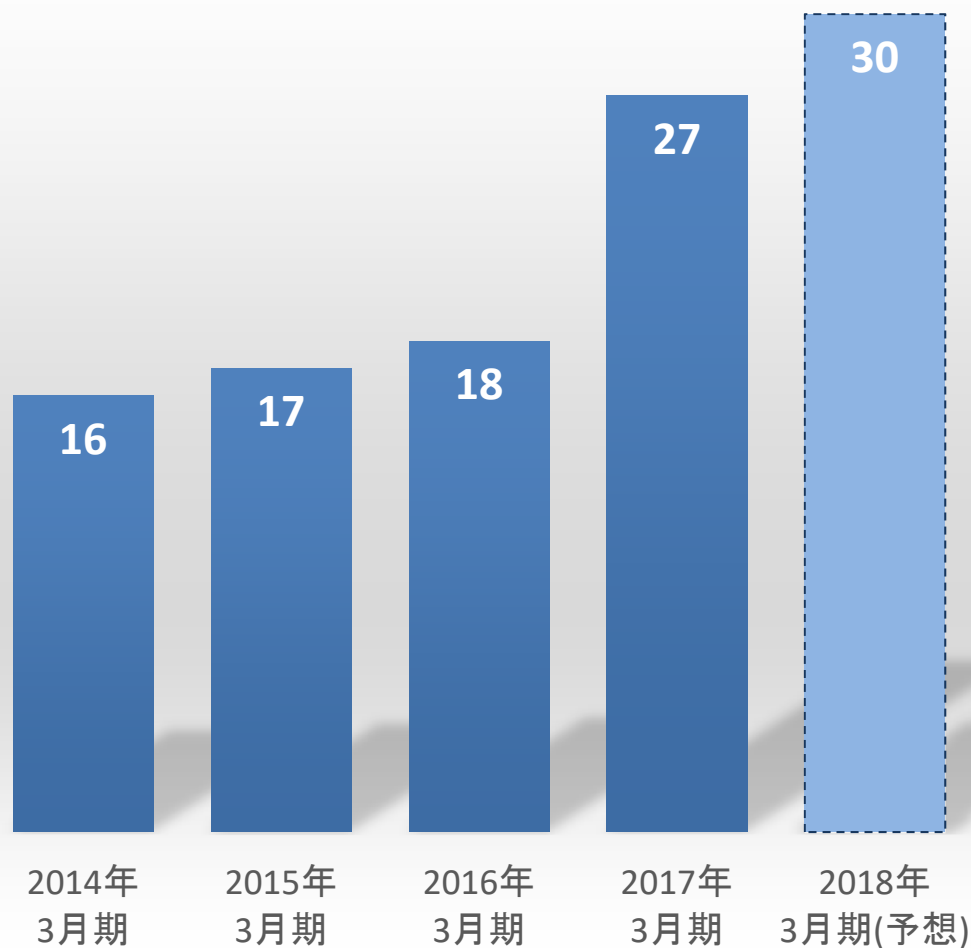


(単位: 百万円)



日本とアジアが
牽引

年間配当金



前年同期比
3円増配の
30円

過去最高



個別実績

2018年3月期 個別業績



(単位:百万円)

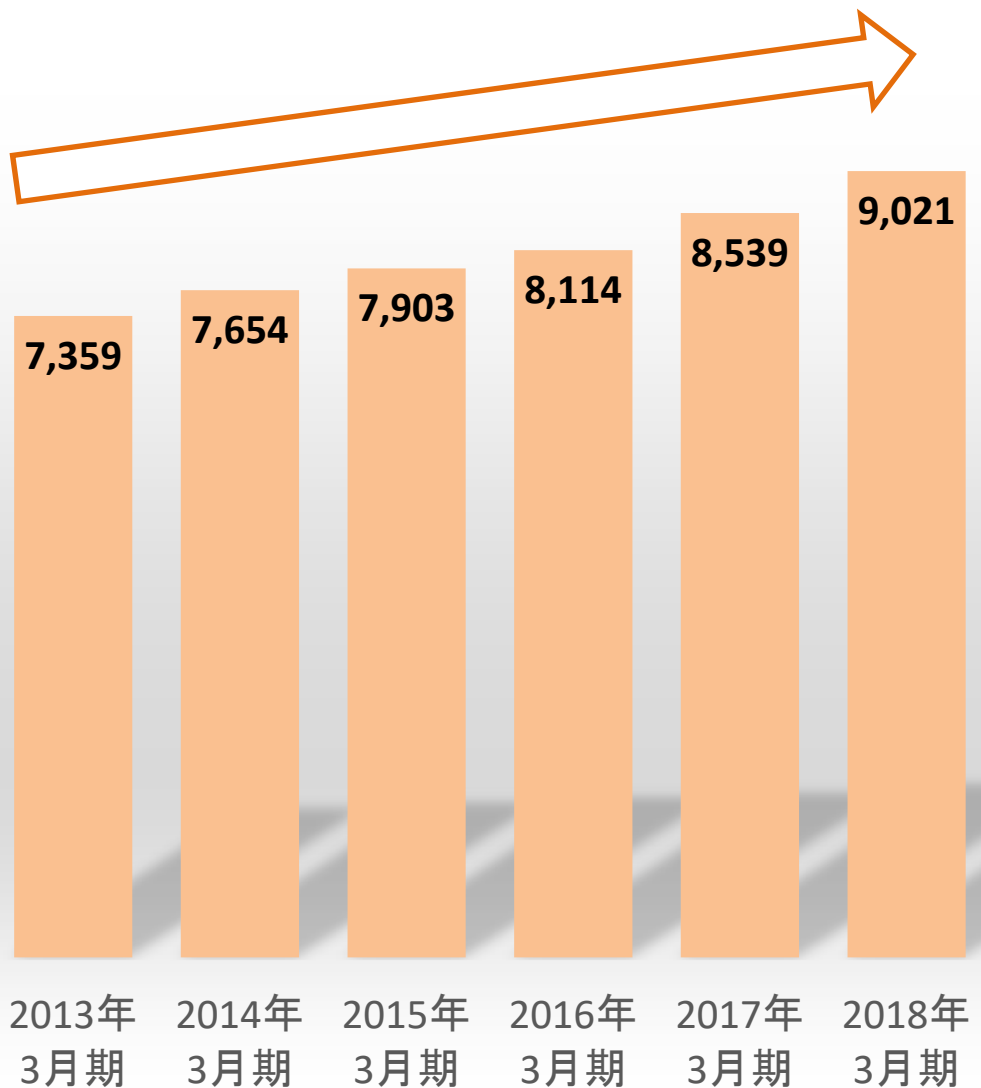
	2017年 3月期	2018年 3月期	前年比	前年差
売上高	12,493	12,783	+2.3%	+289
営業利益	980	1,036	+5.7%	+56
営業利益率	7.9%	8.1%	-	-
経常利益	1,192	1,255	+5.3%	+63
当期純利益	940	1,050	+11.7%	+110

為替レート	米ドル	108円	111円	-	+3円
	ユーロ	119円	130円	-	+11円

自社製品売上高推移



(単位:百万円)



売上高
前年同期比 **5.6%**増

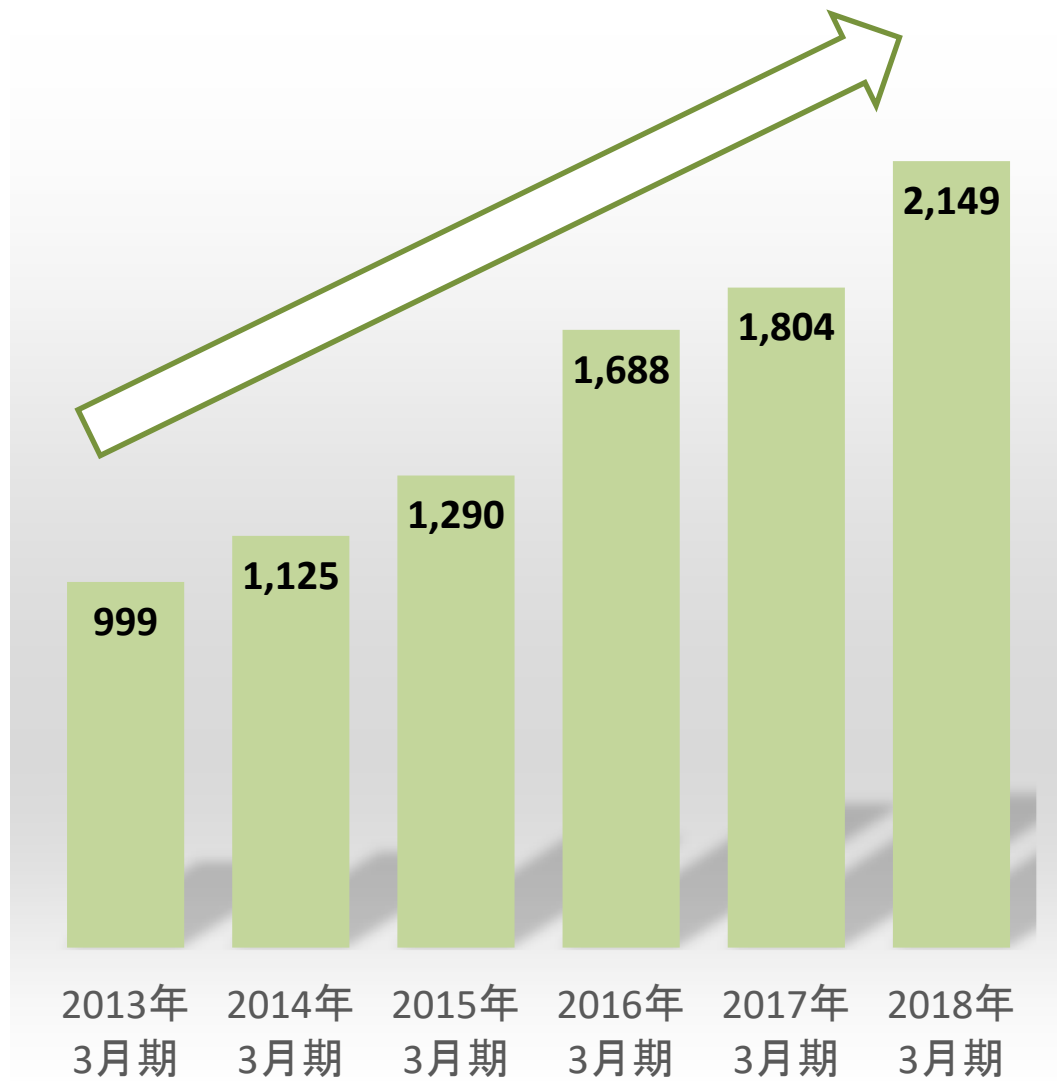
自社製品・他社商品
自社製品比率

70.6%

海外売上高推移



(単位:百万円)



売上高
前年同期比 **19.2%**増

国内海外別
海外売上高比率

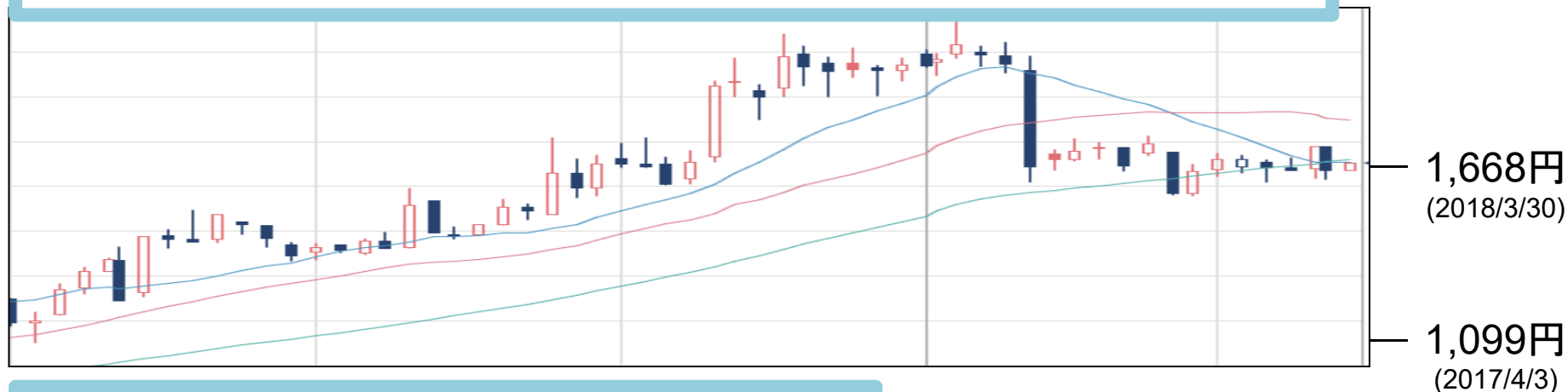
16.8%



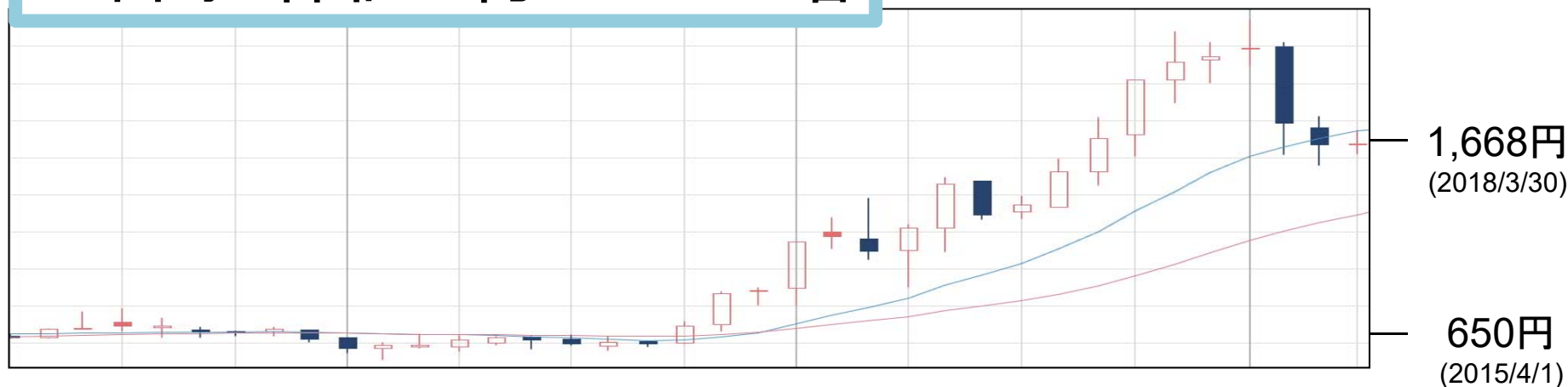
2018年3月期のトピック

株価の推移

2018年3月期の1年間 株価 約**51.8%**増

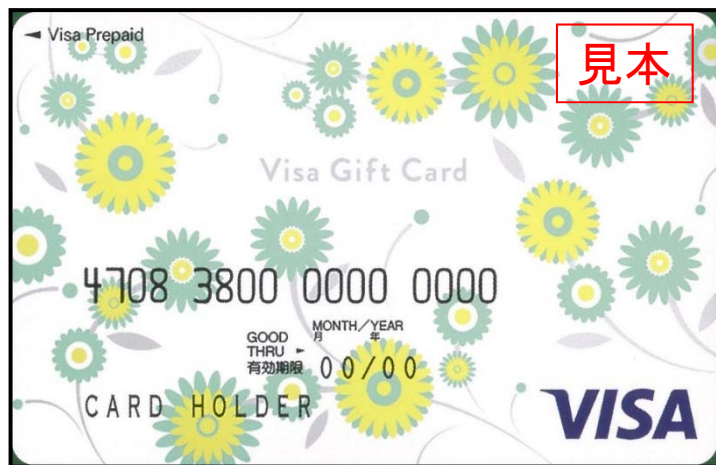


3年間 株価 約**156.6%**増



※2016年3月期に普通株式1株につき2株の株式分割を実施(2015年4月1日 1,300円)

制度の新設



株主優待

◎VISAギフトカード

【株式継続保有期間 3年未満】

100株以上1,000株未満	・・・	1,000円分
1,000株以上	・・・	1,500円分

【株式継続保有期間 3年以上】

100株以上1,000株未満	・・・	1,500円分
1,000株以上	・・・	2,000円分

権利確定月	9月、3月
優待回数	年1回
優待利回り	0.59%

(2018年5月9日現在)

(2017年11月)

くるみん認定マークの取得



「子育てサポート企業」として
厚生労働大臣の認定を受けました

(2018年1月)



3. 中期経営計画

(2019年3月期～2021年3月期)
(第52期) (第54期)



連結 中期経営計画

連結 經營目標



(單位: 百萬元)

	2018年 3月期	2019年 3月期(計畫)	2020年 3月期(計畫)	2021年 3月期(計畫)
連結				
売上高	22,938	24,159	25,625	27,214
營業利益	2,418	2,150	2,401	2,722
營業利益率	10.5%	8.9%	9.4%	10.0%



個別 中期経営計画

前 中期経営計画の振り返り



(単位:百万円)

	2015年3月期 実績	2018年3月期 計画	2018年3月期 実績	達成率	3年前差
売上高	11,710	12,800	12,783	99.9%	+1,073
営業利益	514	900	1,036	115.2%	+522
営業利益率	4.4%	7.0%	8.1%	-	+3.7pt

前 中期経営計画の実績

- ① 営業利益(率)を重視した活動
- ② 原価低減活動
- ③ 計画生産
- ④ 価格改定
- ⑤ 消耗品拡販作戦
- ⑥ 業務改革の推進
- ⑦ ㈱フロムのグループ会社参入
- ⑧ 大阪支店の売却と移転
- ⑨ 株式分割(1株を2株へ)

2019年3月期-2021年3月期(52-54期) 中期経営計画目標

「持続的に発展し続ける仕組み作り」

存続し発展し続ける為に、下記の達成を目指す

- ①従業員(家族や株主)の幸せ (ES)
- ②お客様それぞれの課題解決 (CS)
- ③社会的責任(税金、雇用創出) (CSR)

「企業が存続し続ける」為には、「**持続的に利益が出る**」ことが重要
利益がなければ、いずれ会社は破綻します
そのため、「営業利益」にフォーカスした活動を展開して行きます
但しあくまでも当社の行動基準やコンプライアンスに則った活動の中で
適正に利益を出していきます

I .成長と収益力及び品質の向上

II . 海外戦略の推進

III .人材基盤の強化

IV .情報管理の充実・強化

V .グループ経営の強化

I .成長と収益力及び品質の向上

II . 海外戦略の推進

III . 人材基盤の強化

IV . 情報管理の充実・強化

V . グループ経営の強化

I-1. 主力製品(コアビジネス)の強化



- **世界一のカラムメーカー**を目指す施策検討
- カラム製造の新工場(新LC棟)の建設
- 主力製品のさらなる開発に注力
- 総合カタログNo.31の発行(2019年4月予定)



総ページ数 972P

I -2. 新たなコアビジネスの創出



- 営業本部と技術開発部による新規市場や新規事業の探索
- 業務提携やM&Aの検討



I -3. 事業の構造改革



- 業務改革
- 採算性の強化
- 事務所の再配置



I -4. 物流関連の整備

○ さらなる納期短縮に向けた取り組み

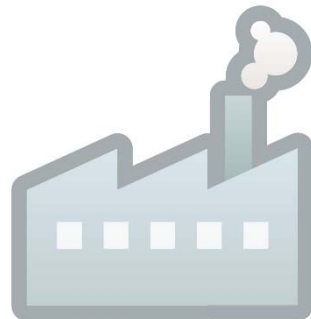
受注、製造、ピッキング、梱包、発送 特に輸出品

○ 新倉庫の設立の検討

受注



製造



倉庫



配送



I -5. 品質の向上

- 世界に誇れる品質を追求し信頼される製品創りを目指す
- QMS(クオリティ・マネジメント・システム)に
開発部門も組み込み、迅速な製品開発・上市を目指す
- 全社の更なる連携強化による顧客満足度の向上
- 高品質な製造プロセスの構築



I .成長と収益力及び品質の向上

II . 海外戦略の推進

III .人材基盤の強化

IV .情報管理の充実・強化

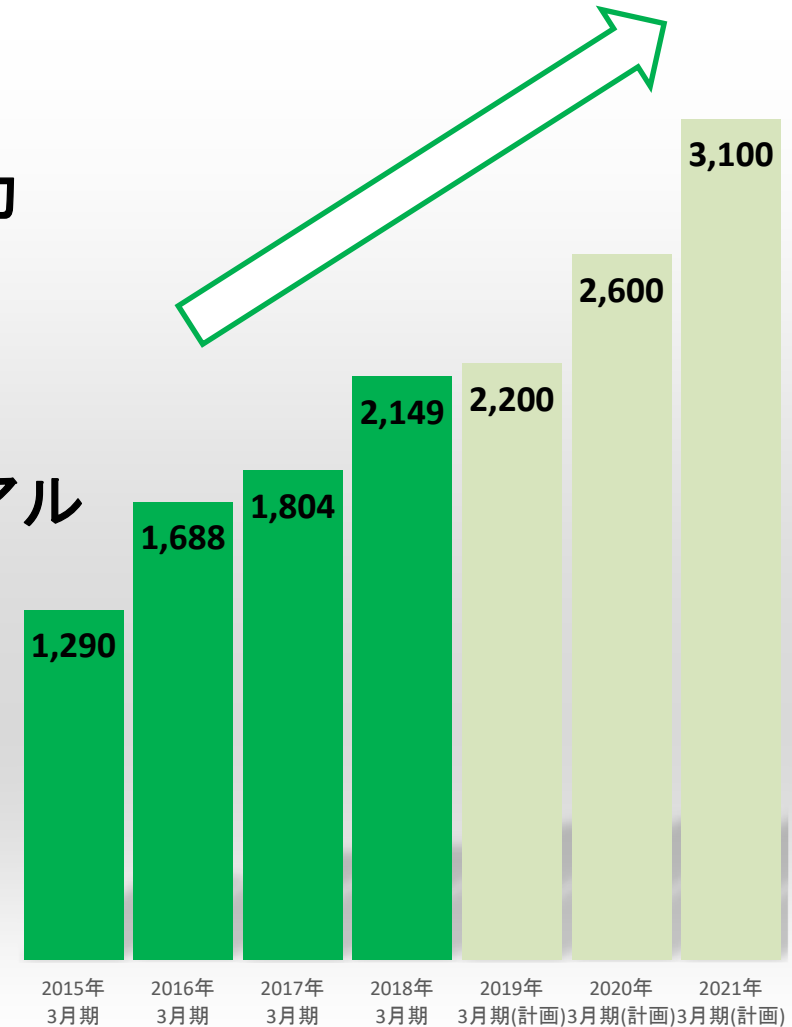
V .グループ経営の強化

Ⅱ -1. 海外の売上比率20%以上への挑戦



(単位:百万円)

- 中国(環境,食品市場)の注力
- インド(後発医薬品市場)の注力
- ネイティブレベルの人材雇用
- 海外ホームページのリニューアル



海外売上高推移

Ⅱ -2. ASEANや新興国への展開準備



- ターゲット市場の調査・進出の検討
- 現地企業の調査・提携の検討
- 海外戦略課もしくはプロジェクトの検討



Ⅱ-3.海外事業展開の再構築



- 海外子会社への人的交流
- 新規提携企業の検討



I .成長と収益力及び品質の向上

II . 海外戦略の推進

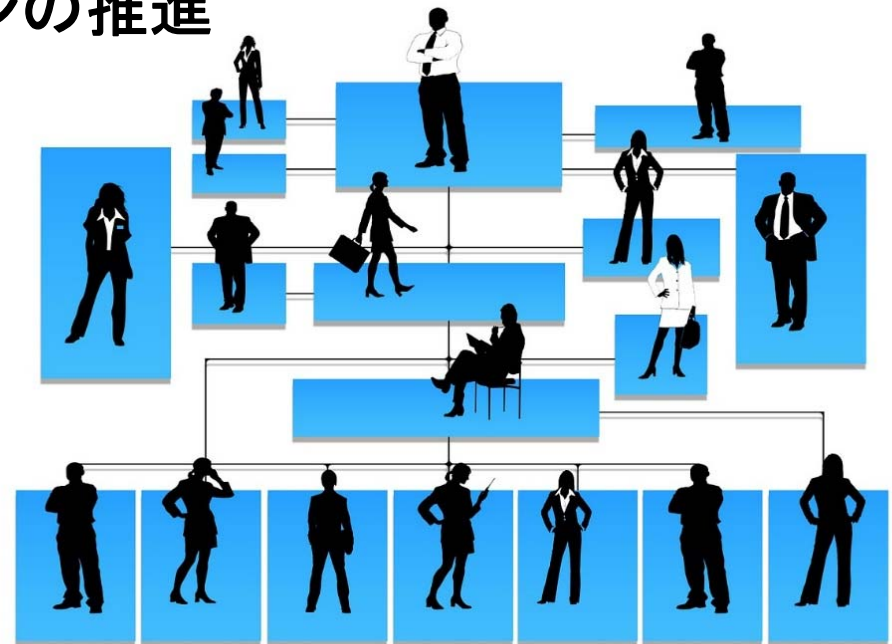
III .人材基盤の強化

IV .情報管理の充実・強化

V .グループ経営の強化

Ⅲ-1. ジョブローテーションの活性化

- 次世代幹部社員の育成強化
- 各階層別教育の見直しと実施
- 若手のジョブローテーションの推進

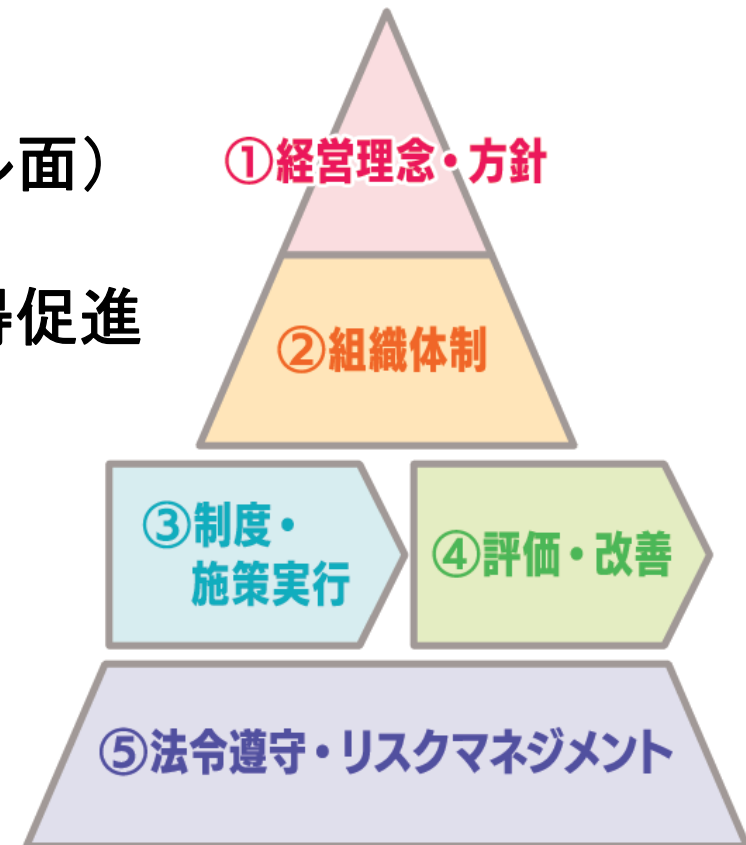


- グローバル人財の育成
- 管理職のマネジメント力強化
- 女性活躍推進



Ⅲ-3.健康経営への取組

- 健康経営優良法人認定基準項目への取り組み検討
- 健康管理制度の充実(フィジカル面)
- 残業時間削減、有給休暇の取得促進



出展: 経済産業省ホームページより

I .成長と収益力及び品質の向上

II . 海外戦略の推進

III .人材基盤の強化

IV .情報管理の充実・強化

V .グループ経営の強化

IV. 情報管理の充実

- 情報システムの全社統合化検討
- BCP対策の強化
- 情報セキュリティの強化
- 海外ホームページのリニューアル



I .成長と収益力及び品質の向上

II . 海外戦略の推進

III .人材基盤の強化

IV .情報管理の充実・強化

V .グループ経営の強化

V. グループ経営の強化

- 経営資源の共有化、業務効率化
- グループの業務ツール、経営支援ツールの強化
- グローバル化に対応したグループ経営管理検討





経営目標

個別 經營目標



3年間後

売上高	145億円	約17億円増加
営業利益	14.5億円	約4億円増加
営業利益率	10.0%	1.9pt向上

(単位:百万円)

		2018年 3月期	2019年 3月期(計画)	2020年 3月期(計画)	2021年 3月期(計画)
個別 分析機器事業	売上高	12,783	13,200	13,800	14,500
	営業利益	1,036	1,000	1,214	1,450
	営業利益率	8.1%	7.6%	8.8%	10.0%

過去最高売上高 13,135百万円(2007年3月期) 過去最高営業利益 1,192百万円(2005年3月期)

キャッチコピー

Challenge 145

(ちゃれんじ いち・よん・ご)

⇒ 3年後の第54期で、売上高**145億円**
営業利益**14.5億円**を目指す



4. 2019年3月期の取組 (第52期)

位置づけ



2016年度

2017年度

2018年度

2019年度

2020年度

2021年度

持続的に発展し続ける
仕組み作り

経済的無から
一つの理想体へ

2018年度

新中計の経営目標を達成するために
引き続き成長し、投資に注力する一年



2019年3月期 個別計画



項目	2018年 3月期	2019年 3月期(計画)	前年比	前年差
売上高	12,783	13,200	+3.3%	+416
営業利益	1,036	1,000	-3.6%	-36
営業利益率	8.1%	7.6%	-	-
經常利益	1,255	1,117	-11.0%	-138
当期純利益	1,050	775	-26.3%	-275

営業利益マイナス要因

新LC棟 減価償却費

- 生産量強化のための投資 今後の成長に不可欠

総合カタログの発刊

- 6年ぶりの発刊 効果が出るのは2019年度以降

営業所移転

- 交通の便を良くし、営業効率の向上

海外ホームページリニューアル

- 国内と同等の情報量を提供
- 顧客満足度を高め、海外売上高増大を狙う

今後の成長に
不可欠

新LC棟(仮称) 計画概要



- 建設場所 : 遊休地(福島開発棟横)
- 大きさ : 2,832m² 1階平屋建て
- 入居部署 : ケミカル2課、ケミカル4課
- 投資金額 : **約20億円**
- 地鎮祭 : 2018年2月9日
- 竣工予定 : 2018年12月 (予定)

新LC棟(仮称) 完成図





新製品

新製品①

パーティ・トラップ濃縮導入装置 PT7000

従来機から、内部標準物質の添加機能を一新し
徹底的な不活性処理により、今までにない感度や
精度の高い分析が可能

最高の操作性を誇る
パーティ・トラップ濃縮導入装置

日本国内の更なるシェア拡大と共に
海外市場も狙う



新製品②

HPLC、LC/MS用カラムの新製品を市場に投入し、主力製品群の売り上げ拡大を狙う

Inertsil[®] ODS-HL 10 μ m

ハイカーボン型のODSカラムとして好評を得ております
Inertsil ODS-HLに、新たに粒子径10 μ mをラインアップ

InertSustain[®] Cyano

薬局方などの各種試験法に対応するため、新たにラインアップ
C18カラムともフェニル系カラムとも異なる分離パターンが求められる場合などに有効



新製品③



皮膚ガス分析という新規市場へ製品の上市と共に、付加価値の高い製品を開発

皮膚ガスサンプラー MonoTrap SG DCC18

人体と直接接触せず空間でガスを捕集することにより
皮膚から発生した放散ガスの捕集を可能にした製品
今までにない画期的な捕集方法
皮膚ガス分析という新規市場にアプローチ



MonoFas[®] 食品中アレルゲン検出用DNA抽出キット13

アレルギー食品検査のPCR法における食品中DNA抽出に適応可能で、現行の方法より、簡便で、DNAの収量、純度においての性能も向上





社会的責任(CSR)

WWF(公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン)

WWF:世界100ヶ国以上で活動している地球環境保全団体

地球上の生物多様性を守ることと、人の暮らしが自然環境や野生生物に与えている負荷を小さくすることを柱に活動を展開

ジーエルサイエンスは、これからもWWFジャパンの活動支援を続けてまいります



取締役社長 長見

福島 木幡市長

地方創生応援税制
(企業版ふるさと納税)

「ずっと福島市
応援プロジェクト」



あなたの「目線」で考える

